



建匠 株式会社
代表取締役

前坂 憲二

常に、物事をポジティブに考えるよう心がけている前坂社長。

失敗することもあるが、「失敗＝ゼロではなく、必ず学びがある」と考え、ステップアップするための糧にしてきた。

類は友を呼ぶと言うように、同じ思考や同じスタンスの人が自然と集まるもの。

すべてを言わずとも、理解し合える人たちが社長の周りにはいる。

社長は、ポジティブ思考と人の縁や信頼を原動力に、食欲に挑戦を続けていく。

**「すべてをポジティブに捉える。
それが物事を良い方向へ導くのです」**



建匠 株式会社

北海道札幌市北区新琴似 8 条 15 丁目 2-26

ガーデンハウス A103

URL : <https://kensyo-k.com/>

腕の立つ職人たちの匠の業、 周囲との共存共栄で高みを目指す



代表取締役

前坂 憲二

共同住宅から新築工事、商業施設、工場まで数多くの建物に精通した職人を擁し、丁寧で高品質な仕事が信頼を得ている『建匠』。住宅の新築・増改築工事、新たな価値を引き出すリノベーション工事の他、新店舗の建築・設備・内装・外装も担い、リノベーションテナントや店舗改装・開店に伴う悩みに対応する。本日は、俳優の大沢樹生氏が同社の前坂社長にお話を伺った。

——早速ですが、前坂社長の歩みから伺います。長く建築業界を歩んでこられたのですか。

社会に出てからは多様な仕事を経験しましたが、建築に関わるが多かったですね。父が鉄筋工事を手掛けていたので、18歳で家業に入って後継を考えたこともあったのですが、自分は外へ出てより色んな世界を見てみたいと考え家業を離れました。その後、23歳の時に大工をしている同級生から誘われて、大工の道へ。大工は技術を身につければ、腕一本で多様な仕事を手掛けられることが魅力で、貪欲に色んなことに挑戦したいと考えていた私には合っていたと思います。30歳まで同級生と各地の現場に入り、独立してフリーに。こちら北海道に留まらず、本州の現場も経験しました。そして2016年4月、40歳で『建匠』を設立したんです。

——独立してから長く個人事業を営まれ、法人化も遂げられたわけですが、どんな企業でありたいとお考えですか。

私はもともと職人なので、経営者というよりお客様目線で物事を考えがちだったんですね。もちろん、それは大事なことです。経営者になってみて職人の待遇向上も大切であると改めて気づきました。そのためには、当社が直接お客様からお仕事をいただく流れをつくる必要があります。元請けとなり、お客様と職人を結びつける橋渡しのような存在になりたいです。

——現場で汗を流して懸命に働く職人さんの待遇が良くないなんて正当ではありませんよね。御社のような会社は、職人さんたちにとって心強いと思います。御社には何名ほどの方が？

社員4名と職人22名で動いています。30代、40代の方が多いですね。当社は、「人から人への縁」を大切にしている、職人さんの募集はしたことがありませんが、ありがたいことに人材に恵まれています。営業も一切しませんが、お客様も仕事も口コミや紹介でいただいています。

——それは、御社の職場環境の良さとお仕事への信頼があるからに他なりません。人の集まり方として理想的ですね。日ごろ、職人の皆さんとコミュニケーションを？

もちろんです。私は社長という立場にありますが、社長だから皆さんより偉いなどとは思っておりません。職人さんたちがいて初めて当社の仕事は成り立ちますから、皆さんとはフラットで対等な関係でありたいんです。言いたいことは何でも言い、何事も話し合いで決めるようにしていますね。雰囲気も和気あいあい

としています。

——それは働きやすい社風です。職人さんに恵まれていらっしゃる理由が分かりました。

それから、独立してご自身で現場を担ってもらう形を勧めています。職人は腕一本で渡り歩ける実力の世界。実力があれば、組織に属するよりも独立したほうが稼げますからやり甲斐も増します。一方で、職人さんの腕にも差がありますから、誰か一人ではなく全員が腕を上げていける環境を大事にしています。先輩が、まだ経験や技術が足りない人に指導する。また、現場であったことや失敗談を共有するんです。そうすることで、皆が共に成長していけると思いますから。今は、コロナ禍で大勢で集まることはできませんが、何人かずつ会議を行うなど、皆でコミュニケーションを取る機会を大事にしています。

——社長は、本当に職人さんたちのためになることをお考えですね。

私一人で会社を成長させることはできません。皆がいてこそその当社ですから。私は、本当に人に恵まれ、多くの方に支えられてここまでできました。函館に知り

合いの元請けさんがいるのですが、その方と出会ってから当社は軌道に乗りました。とても面倒見の良い方で、貪欲に挑戦していきたい私の背中をいつも押して下さいますし、バックアップしていただいています。私を厳しく叱咤激励して下さい方もいて、年に一度しか会わないながら、その方のお陰でどんなに苦しくて大変なことも乗り越えられる気がするんです。また同級生で商売をしている人も多く、彼らからは良い刺激を受けますし、私は人に恵まれました。

——人に恵まれていると気付ける社長のお人柄が、良い方々とのご縁を引き寄せているのだと思います。今後については、どのようにお考えですか。

これまで同様に、社員や職人とワンチームとして、より一層、良い仕事をしていきたい——これに尽きます。その中で当社の知名度を上げ、北海道で一番、ひいては業界で一番を狙いたい。また、海外へ出向いて、大工の技術を教える機会も得たいですね。そうして、いつの時代も人々の生活や経済活動を支える大工の技術を伝承していきたいです。

(2020年9月取材)



周りを大事にすれば 自分に返ってくる

▼人間関係は合わせ鏡——。自分が周りを大事にすれば、周りの人たちと互いを思いやれる良好な関係を築けるものだ。前坂社長は、そのことを知っている。日ごろから、「人」を何より大事にしており、「人を大事にすれば、必ず自分に返ってくる」と語る。たとえ騙されようとも、人を信じることを決してやめず、信じ続けたい。その気持ちや、相手からの信頼を得ることにつながり、たとえば仕事に結びついたり、事業を手掛ける上で互いを支え合える関係構築に発展するものだ。逆に、自身の利益だけを考えて人を欺くようなことをすれば、自分も同じ目に遭う。「何かに失敗した時は、自分の行いの結果。そう考えるようにしています」と社長。社員と職人、そして自身を支えてくれる人やこれまでに出会った人々との縁を大切にし、「人から人への縁に感謝」をモットーとする。今後も、周囲と共存共栄するスタンスで成長を期す。

俳優
大沢 樹生



「コロナの影響で『建匠』さんも春から夏にかけては売上が落ちたとのことですが、今はその落ち込みを取り戻すくらいの受注があるそうです。すでに昨年の売上を超えており、コロナ禍で業績を落として大変な思いをしている企業が多い中、素晴らしいことです。それも、御社の仕事が評価・信頼されているからこそ。今後のご発展に期待がかかりますね」
大沢 樹生・談